



目指す子ども像 ふるさとを愛し、心豊かでたくましい子ども

東目屋地区コミュニティ・スクール通信

第11号 平成30年2月19日 東目屋小・中学校 文責(佐藤)



地域とともにある学校づくり 第3回東目屋中学校区 学校運営連絡協議会



2月1日(木)(18:30～)、中学校図書室で行われました。本年度最後の連絡協議会で、出席者は14人(欠席2人)でした。

協議内容として、①中学校の農園活動に対して協力体制を維持していくためにどうするか ②学校と地域の間を取りもつ役割であるコーディネーターの人選について提案や話し合いをしました。

①については議長である笹谷哲人さんからコミュニティ・スクールだからといって急に地域に呼びかけても抵抗があるので、農業従事者のなかで小学校の保護者でもある方にま

ず協力を依頼するという提案がありました。地区として農業に従事する保護者が減少しているなか、中学校の教育活動の特色である農園を維持していくためにはよい方法でないかと賛成する意見が多くでました。②についても同じく笹谷さんから「いつ・もの・こと」目屋新聞編集者の工藤健(たける)氏が候補として挙がりました。理由として、新聞の取材を通して目屋のことを知っているし、人も知っているということでした。一人よりも複数名がよい、女性もいたらよい等の意見も出ましたが、工藤健氏については決定とし、あとの人選についてはその後、活動する中で考えていくことになりました。

この他、報告として学校に対するアンケート結果、次年度の学校経営方針などがありました。コミュニティ・スクールは学校だけでなく、地域全体で子どもを育てていくという趣旨で設定されたものです。委員の皆さんには次年度も積極的に学校と関わっていただきたいと思っています。

スキー学習でもお世話になりました 中学1・2年スキー学習 小学校でも

体育の授業の一環としてそうまロマントピアスキー場で小、中学校ともスキー学習を実施しています。その際、東目屋スキークラブの皆さんに協力していただき指導を受けています。中学校が各学年ごとに3回、1回あたり3名の指導員、小学校は全学年一緒に3回、1回あたり7名の指導員の方から協力いただいています。小学校はさらに3年生以上が百沢スキー場でも1回指導を受けています。

中学校の場合、西目屋小学校出身の初心者の生徒でも3回でロマントピアスキー場の頂上から滑ることができますようになります。スキークラブの皆さんありがとうございます。





体力自信あります、まかせて!

2月2日(金)、中学1、2年生が東目屋地区4か所で雪片付けボランティアをしました。児童館付近と吉川、平山、桜庭地区の一人暮らしのお年寄りの住宅で行いました。お年寄りからは屋根雪が窓の高さまで積み重なって困っていたが、ガラスが割れる心配もなくなったし、家の周りもすっきりして大変助かった、また児童館からも駐車場を広く使えるようになったと感謝の言葉をいただきました。

生徒たちは汗だくで活動し、中には半そで姿になって頑張っている者もあり、皆さんから喜ばれ満足したようです。自分たちの活動が認められ、人の役に立っているという実感を得ることは大事な体験であり、思いやりや地域を愛する気持ちを育てていくことにもつながると思います。

3年生の生徒は、昨年7月、地域の保育園や介護施設で福祉体験活動を行っており、これからも奉仕活動を通じて地域との結びつきを大切にしていきたいと考えています。

小中一貫教育システム もうすぐ中学生

2月8日(木)の午後に中学校において新入生体験入学・入学説明会が行われました。東目屋、西目屋小学校6年生合計20名(入学予定者は21名)と保護者を対象に、校舎と授業見学、中学校生活についての説明があり、最後はジャージのサイズ合わせと物品購入をしました。

中学校の生徒会役員による学校行事のライド上映では、修学旅行、東中祭、炊事遠足、2年生の立志式、職場体験学習などが紹介され、6年生が興味深そうに話を聞いたり、ライドを見ていました。上映後は「どんな行事が楽しみですか」「何の部活に入りたいですか」といったインタビューがあり、6年生が緊張しながら答えていました。

最後のジャージのサイズ合わせでは、実際の中学校ジャージを試着し、子ども同士で見せ合って歓声を上げたり、親子で袖丈や裾丈を確認し、ちょっぴり中学生気分を味わっていました。

なお、2月26日の午後には中学校授業体験も行います。昨年は中学校から東目屋、西目屋小学校へ出かけて中学校の授業を行う出前授業を実施しましたが、今年度は両小学校の6年生が一緒になって中学校の教室で、中学校の先生から教科の授業を受けます。教科として理科『実験：水の電気分解と燃料電池』と数学『数の規則性』を予定しています。

次年度も小学校と中学校の児童生徒のみならず職員の交流も深め、目屋地区の子どもを一緒になって育てていくという意識で取り組んでいきます。



インタビューに答える6年生



中学校ジャージ似合うかな?